

会 議 概 要

1. 会 議 名..... 第3回安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり審議会.....
2. 日 時..... 令和8年3月27日(金) 午前10時から正午.....
3. 会 場..... 市役所本庁舎4階 大会議室.....
4. 出 席 者..... (敬称略) 尾藁ゆみ、出井博文、菊池聡、松岡信之、塩野治幸、山口敬之、
嶋田奈麻美、北村早希、石田悠真、森下右里子、葦木啓夏
5. 担当課出席者..... 人権共生課長 櫻井、大場、岡村.....
6. 公開・非公開の別..... 公開.....
7. 傍聴人 0人 記者 0人.....

1 開会（人権共生課長）

2 会長あいさつ

本日は、令和7年度の計画の進捗状況についての報告、前回の第2次計画のベースとなるアンケートの案についての協議。積極的にかつ簡潔に忌憚のないご意見を。

3 協議事項 【発言者 ◎会長 / ・委員 / ⇒人権共生課】

- (1) 令和7年度安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり推進施策実施事業及び令和8年度取組案について（人権共生課説明）

【質疑応答】

・事業所等への啓発について、ようやく DEI を進め始めた企業も出てきた。「啓発」と一方的に言っても、相手が何に悩んでいるのかわからないと思うので、ヒアリングの際にきいてみたらどうか。
⇒企業訪問の際には、事前に推進にあたっての課題や取組等を聞くようにしているが、それがプレッシャーにならないようにする難しさは感じている。取組事例については、共生社会づくり広報紙等にて共有することで啓発につなげており、事業所の課題感については、来年度の意識調査もあるので、その中でも把握できればと考えている。今後の施策に反映させたい。

- (2) 第2次安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画に向けたアンケートについて（人権共生課説明）

【質疑応答】

・広報とアンケートは分けて絞った方がよい。啓発の意味合いもあると思うが気軽にチェックできるようにしたらどうか。字が小さいことも気になる。オンラインで簡単にできるような工夫は考えているか。
⇒紙での回答と併せてオンラインでの回答ができるように現在のところ考えている。

◎設問数が多くなっている。答えやすくするために設問を削るといった点はどうか。

- ・外国籍の方にこれだけの設問するのはちょっと難しいのではないかと。2回くらいに分けて行うというのはできないか。回収率のことも考えて、項目を減らすのが良いと思う。アンケートの回答を基に方策等を検討する際に必要であれば再度アンケートを取るのも一つの方法かと考える。

⇒どのような方がどのような回答をしたのかを分析する必要があり、複数回行うとすると、性別、年代、国籍等の基礎項目についても、毎回聞かなくてはならない。無記名のアンケートとなるため、母集団を揃えなければ、深堀することは難しい。

◎前回、外国籍の方に向けたアンケートについて、日本国籍の方と同じ質問をとのご意見もあり、事務局がその内容で資料を作っているが、どうか。

⇒前回出された意見に沿って、日本国籍の方と同じ設問をしているが、事務局内で内容が難しすぎるのではないかと懸念している。また、安曇野市に住んでいる外国籍の方がどのようなところに困っているのかということを知りたいと考えているため、日本人と同じ項目にすることは趣旨がずれたり、設問が多すぎて回答率がさがったりするのを避けるためにも、やはり外国籍の方向けの設問にしたいがいかか。

・困りごとに焦点を当てるのであれば、設問数が少ないもので良いと思う。差別に関する項目については、どのようなものなのかまで聞けたらよいと思う。

⇒具体的に内容を把握したい気持ちはあるので、加えられたらと考える。

・設問項目の「日本人と同じくらい読める」という箇所はわかりにくい。また、設問がどのような施策につながるのかが見えないので、審議会内では資料の中で共有していただきたい。

⇒「同じくらい」と言う表現だと個人によってばらつきがあるので、項目は検討したい。

・日本人と同じくらい読める読めないといったことより、外国籍の方がどこに困っているのかということの方が重要。

・冒頭で在日経験も併せて聞いた方が困りごとの背景が見えやすい。

・アンケートが読めない人、分からない人に対してどのようにするのか。

・外国籍の方向けのアンケートは、そのまま翻訳すればよい。

⇒アンケートは翻訳する予定。併せて、相談窓口を案内できればと考えている。

・外国籍の方向けのアンケートは、外国の方に特化した内容で良いと思う。

・アンケート内の「配偶者」の表現が、内縁含むパートナーとなっている箇所もあるため、統一した方が良いのではないかと。設問によっては、「夫婦」と限定的になっている箇所もあるので、適切かどうか検討してほしい。

・設問の項目の中で、具体的な職業が出ている箇所があるが、職業差別につながらないか気になった。

・パートナーからの暴力の設問については、被害を受けたことのある方が回答するには苦しい。もしかしら、その後の設問に回答できないかもしれない。聞き方に工夫が必要。

・DVに関する項目は、身体的な暴力は確実に誰が考えても暴力になると思うが聞く必要があるのか。

・暴力という言葉が世代によってとらえ方が違う。定義を記す必要がある。

⇒暴力の定義を入れた方が啓発につながるのだから、入れていきたい。

⇒暴力に関する設問があることも踏まえ、全体の説明の部分で回答したくない箇所については回答しなくてよい旨を記しておくことで対応していきたい。

・社会調査でもそうした案内文のスタンダードなものが用意されている。参考にしてもらえば。

・暴力に関する個別の項目については、間接的な表現を取る方法も有効だが、全体量を考えると難しいかもしれない。

- ・項目を減らす観点では、誰もが暴力だと思うような項目は省き、判断が分かれるような項目のみに絞った方がよい。
 - ・調査の目的として、全体の傾向を知ることなのか、どこで問題が起こっているのか検出するためなのか、調査の目的に合わせて対応させるべき。
 - ・ハラスメントの項目についても、どう判断するかの調査であれば、中立的な言葉を用いた方がよい。項目の見直しをして、明らかにハラスメントだというものは省く。
 - ・選択を3つまでと限定する設問については、選択肢の初めの方で選ぶ方が多くなるので、偏る。本来であればひとつひとつ聞く方が正確だとは思いますが、設問数が増えるので検討いただきたい。
 - ・ハラスメントの項目は、初めから項目にあがっているものは、すべてハラスメントだろうと思って何も考えずに丸をつけてしまう。紛らわしいものを入れて、回答者が考えるように作っていただけるとありがたい。
 - ・回答者の年齢によっても考え方は違う。
 - ・一般的、社会的にハラスメントとされるものと企業内でハラスメントとされるものでは、少し違ってくるのではないか。
 - ・DVの項目についても暴力という言葉だけだと足りない。暴力というと身体的な暴力を指すし、項目では脅迫、経済的虐待、心理的虐待などいろいろとあるので、暴力という言葉だけだと限定的。
⇒ハラスメントについては項目を精査し、表現についても中立的かつ具体的なものとしたたい。DVの項目については暴力の定義づけをしたうえで、範囲を狭めながら聞いていけたらと考えている。
- ◎表現についてはもう少し工夫が必要。検討いただきたい。
- ・アンケートの対象が18歳からとなっているが、言葉の理解については格差があると思う。わかりやすい言葉にしてほしい。
 - ・アンケートを答える側として、聞く項目について見出しがあると気持ちが切り替わって回答できる。
- ⇒わかりやすい表現は心掛けていきたい。見出しについても入れる方向で考えたい。
- ・DVの設問の部分は親族以外からの性暴力は含まれないのか。
- ⇒この設問については、パートナー間であっても暴力であるという認識を確認する意味を込めている。
- ・設問の作り方について、選択肢に同じような言葉が並ぶ場合は構造化して、設問を分けて選択肢を減らした方が答えやすくなる。
- ⇒設問を減らすことを意識してまとめてしまったので、設問を増やしても選択肢を減らした方が答えやすいとのことなので、そのように作りたい。
- ・外国籍の関係であれをしてはダメ、これをしてはダメと神経質に考える傾向にある。マイクロアグレッション等気をつけなければならないと思う反面、根本としては委縮しないで付き合っていく、自由が大前提にある。自由度の高い社会がよりよい社会。いけないことを強調して啓発するのは良いとは思われない。前提の部分でお願いしたい。
- ◎今回の案を基本の方向として、事務局で進めるということで良いか。
(異議なし)

(3) その他

・共生社会づくり推進施策実施事業及び取組案の資料について、どこまでやるのかを明確にしておかないと達成度の評価に影響する。次回以降、各部署統一した考え方でやっていただいた方がよい。

4 閉会

(以上)